

19. 前置詞 (1)

1. 前置詞 (Präposition) とは「前に置くもの」という意味の品詞で、通常は名詞あるいは代名詞の前におかれます。そしてそのあとにおかれる名詞や代名詞は所有格である2格や目的格の3格または4格がもちいられます。

wegen des Unfalls

because of the accident

Unfall (m.) 「事故」は2格ですが、「…の」という所有の意味ではなく wegen「…のために」という前置詞が文法的に2格とともにもちいられることになっていますから、常に2格の名詞や代名詞がそのあとにおかれます。このようにこの前置詞が2格を要求することを「2格支配の前置詞」とよんでいます。英語の *because of the accident* も本来は *because* という前置詞はそのあとに所有格を必要としているために *of the accident* という所有の *of* を伴った名詞をおいているのです。

mit dem Freund

with the friend

mit は3格支配の前置詞で Freund (m.) の3格とともにもちいますが、英語の *with the friend* の *the friend* もやはり目的格です。これは代名詞でおきかえて *with him* としてみるとよくわかります。

für meine Mutter

for my mother

Mutter (f.) 「母」も4格支配の *für* とともにもちいられると4格の *meine Mutter* となり、英語の *for my mother* を同様に代名詞でおきかえると *for her* ですから、やはり目的格であることがわかります。

2. 2格支配の前置詞

2格支配の前置詞はじつは前置詞のなかでは一番たくさんあるのですが、日常的によく使われるのは以下のもの4つ程度です。

statt	「…のかわりに」	<i>instead of</i>
trotz	「…にもかかわらず」	<i>in spite of</i>
während	「…のあいだ」	<i>during</i>
wegen	「…のために」	<i>because of</i>

本来はこうした2格支配の前置詞は名詞から転化したものが多く、例えば *statt* は「場所、立場」という名詞であって、*statt meines Vaters* 「私の父の立場」即ち「私の父の代わりに」という意味で使われるようになりました。英語の *instead* も中世のころの英語では *in stead = in place* という意味でしたから、*in place of my father* 「私の父の立場」ということであってドイツ語と同じ考え方なのです。

3. 3格支配の前置詞

3格支配の前置詞で日常的によく使われるのは以下のものです。

aus	「…(のなか)から」	<i>out of</i>
außer	「…の外に、以外に」	<i>except</i>
bei	「…の所で、…の際に」	<i>by</i>
gegenüber	「…の向かいに、…に対して」	<i>opposite</i>
mit	「…とともに、…でもって」	<i>with</i>
nach	「…へ、…の後で」	<i>to, after</i>
seit	「…以来」	<i>since</i>
von	「…から、…の、…について」	<i>from, of, about</i>
zu	「…へ」	<i>to</i>

aus と von の違いは、aus は発生や出生をあらわすのに対して von は単に「…から」という出発点をあらわします。bei は英語の *by* と似ていますが「…のそばに」という意味ではあまり使われません。mit は英語の *with* と同様な意味で使いますが、手段や方法の意味もありますから「車で」という場合にも mit dem Wagen としもちいます。nach と zu はいずれも方向を示すものですが使い分けを間違いやすい前置詞で、一般的には nach は遠くの大きな目標(例えば地名など)とともにもちいますが、zu は近くて小さな目標(例えばひとや建物)とともにもちいられることが普通です。しかしいずれも例外があることは知っておいてください。

4. 4格支配の前置詞

4格支配の前置詞で日常的によく使われるのは以下のものです。

durch	「…を通過して」	<i>through</i>
für	「…のために」	<i>for</i>
gegen	「…に抗して、…時ころに」	<i>against, towards</i>
ohne	「…なしに」	<i>without</i>
um	「…の周りに、…時に」	<i>around, at</i>

für は英語の *for* のもとになった前置詞ですから「対象」を示す(例えば、母のために贈り物を買う、という場合)のものであり、2格支配の wegen は「原因、理由」をあらわす(例えば、嵐のために、という場合)のものであって、このふたつを混同してはなりません。ohne は英語の *without* と同様にしばしば無冠詞の名詞とともにもちいられます。um は「…の周りに」という意味以外に、時刻をあらわす場合の英語の *at* と同様に「…時に」という意味で使われます。さらに gegen も時刻をあらわす場合に「…時ころに」という、おおよその時間をいう時にも使われます。

以上の前置詞の格支配は辞書に記してありますが、さらにいろいろな意味も書いてありますから、慣れるまではかならず辞書を調べて格支配や意味を確認するようにしましょう。

5. 辞書には前置詞の格支配は次のように表記してあります。

statt [前置詞](2格とともに) あるいは prp. mit gen.
gen. は Genitiv(2格)を意味する文法記号で、それぞれ dat. は Dativ(3格)、acc. は Akkusativ(4格)を意味します。従って mit gen. とあれば「2格とともに(もちいられる)」ということであらわしています。